

第2日 第1会場-5

目的としての作文から手段としての作文へ

— 私的自己づくりから公的自己づくりへ —

長崎大学 安河内義己

1 第93回大阪大会発表で触れえなかった課題をふまえて

発表題は『作文指導のトータル化—「10分間作文」「読み・書き関連・連動指導」「作文単元」の連携』であった。その際、触れえなかった課題は次の3点。

大阪大会発表の際の事例 — 「六の一国際会議で自分の意見を分かりやすく発表しよう」という明確な目標に向かって、文や文章の組み立ての効果や全体の流れを考えて、文章を書いたり資料を工夫したりする — に見たように、

課題1 「トータル化」を必要とする作文は書くことが目的となるのではなく、書くことはあることをなすための手段としての位置におかれる。書くことで完結する作文とそうではない作文と、その作文は同じであってよいか。

課題2 「トータル化」を必要とする作文は自分だけの自己表現（これを私的自己表現としよう）をしていけばよいでは済まされない。自分たち（事例の場合は班の）の持ったテーマなり課題に即した自己表現（これを公的自己表現としよう）が要求される。私的自己表現の作文と公的自己表現の作文と、その作文は同じであってよいか。

課題3 「トータル化」を必要とする作文は文字言語だけに頼る作文では済まされない。写真・絵・図・表などもこれを積極的に言語とみなし、活用することが迫られる。文字言語だけに頼る作文とそうでない作文と、その作文は同じであってよいか。

2 目的としての作文と手段としての作文

①他者に判断すること・決定すること・行動することを求める作文と、他者への伝達を求める作文と、思想や世界を創造することを求める作文と。

②特定された公的相手（個人や公衆）に①のことを求める作文と、不特定の私的相手（個人や公衆）に①のことを求める作文と。

3 私的自己表現としての作文と公的自己表現としての作文

・情報理論に立って、情報の受け手として、どうあったらよいか。

・情報理論に立って、情報の創り手として、どうあったらよいか。

・情報理論に立って、情報の伝え手として、どうあったらよいか。